

平成 27 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス					
教科目名	コンピュータリテラシー	担当教員	本塚 智		
学年学科	2年 機械工学科	前期	必修	1 単位	
学習・教育目標	(D-2) 50% (E) 50%				
授業の目標と期待される効果： 近年、工業製品の研究開発、設計・製造プロセスにおいてコンピュータを利用する機会が飛躍的に増えている。また、IT 革命以来、技術者にも大量の情報を管理し、多種多様な人々にわかりやすく自分の考えをデジタルデータで発信する能力が求められている。このため、IT 能力は技術者にとって不可欠な能力となっている。 本講義ではこの背景に基づき、以下に示す IT に関係する基礎的な内容を扱い、講義と実践を通じてコンピュータリテラシーを修得することを目標とする。 ①コンピュータの基礎 ②キーボードの使い方 ③インターネットとメールソフトの使い方 ④Office 系ソフトウェアの活用		成績評価の方法： ・ 試験 200 点 (100 点×2) と課題 100 点、合計 300 点の総得点率を 10 段階で評価する。 達成度評価の基準： 試験では、IT に関する基礎的な内容を出題する。また、課題では、講義で扱った内容に関する実践能力を問う。これらを総合的に判断するので、6 割以上の正答率、および遂行能力を達成していること。なお、成績評価への重みは、下記項目の全てについて均等である。 ①コンピュータの基礎を理解し、説明できる。 ②キーボードを的確に扱うことができる。 ③コンピュータのネットワーク機能を理解し、インターネットやメールソフトをマナーに沿って的確に扱うことができる。 ④Office 系ソフトウェアを実践の中で活用できる。			
授業の進め方とアドバイス： IT に関係して重要と思われる題材を幾つか採り上げ、これらについて講義と実習を組み合わせさせて進めていく。本授業では実習時間を多く取ることで、個々人が直接コンピュータを扱いながら IT 能力向上に努めていけるよう配慮している。なお、学生諸君の理解度に応じて、シラバスの内容と進度を変更することも有り得る。					
教科書および参考書： 必要に応じて資料を配布する。また、本校図書館を積極的に活用し、コンピュータに関する様々な書籍・雑誌を読んで IT に関する知識を自発的に養うのが望ましい。					
授業の概要と予定：前期					AL のレベル
第 1 回： 授業の概要説明、機械工学と IT との関わり (講義)					
第 2 回： パーソナルコンピュータの基礎 (講義)					
第 3 回： キーボードとブラインドタッチ入門 (講義・実習)					C
第 4 回： インターネットとセキュリティ (講義・実習)					
第 5 回： ワードプロソフトによる文章作成「案内状を作ってみよう」(講義・実習)					C
第 6 回： ワードプロソフトによる文章作成「履歴書を作ってみよう」(講義・実習)					C
第 7 回： ワードプロソフトによる文章作成「高度な書式」(講義・実習)					C
第 8 回： 前期中間試験					
第 9 回： 表計算ソフト演習「色々なグラフを作ってみよう」(講義・実習)					C
第 10 回： 表計算ソフト演習「家計簿を作ってみよう」(講義・実習)					C
第 11 回： 表計算ソフト演習「スケジュール表を作ってみよう」(講義・実習)					C
第 12 回： プレゼンテーションソフト演習「自分の趣味の素晴らしさを伝えよう 1/2」(講義・実習)					C
第 13 回： プレゼンテーションソフト演習「自分の趣味の素晴らしさを伝えよう 2/2」(講義・実習)					C
第 14 回： プレゼンテーション発表会 (講義・実習)					B
第 15 回： プレゼンテーション発表会 (講義・実習)					B
前期期末試験					
第 16 回： フォローアップ (前期期末試験の解説、授業アンケート、プレゼンテーション発表会について)					

評価 (ルーブリック)

達成度 評価項目	理想的な到達 レベルの目安 (優)	標準的な到達 レベルの目安 (良)	未到達 レベルの目安 (不可)
①	コンピュータの基礎に関する問題をほぼ正確(8割以上)に解くことができる。	コンピュータの基礎に関する問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる。	コンピュータの基礎に関する問題を解くことができない。
②	キーボードの使い方に関する問題をほぼ正確(8割以上)に解くことができる。	キーボードの使い方に関する問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる	キーボードの使い方に関する問題を解くことができない。
③	インターネットとメールソフトの使い方に関する問題をほぼ正確(8割以上)に解くことができる。	インターネットとメールソフトの使い方に関する問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる。	インターネットとメールソフトの使い方に関する問題を解くことができない。
④	Office系ソフトウェアの活用に関する問題をほぼ正確(8割以上)に解くことができる。	Office系ソフトウェアの活用に関する問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる。	Office系ソフトウェアの活用に関する問題を解くことができない。